

# 入試 性差別認めぬ規範

## 全国学部長会議 医学部違反は処分

一連の医学部入試不正を受け、全国学部長会議(会長＝山下英俊・山形大医学部長)は16日、性別による点数操作は許されないとする、医学部入試についての規範を公表した。卒業生の親類や地域枠など各大学の実情に応じた人材を求めることは認めつつ、入学者の受け入れ方針に明示するよう求めた。

### 親類・地域枠 容認

各大学は、来春の入試から、規範に沿った対応が求められる。また、文部科学省は過去の入試について、問題があれば自主的に公表するよう求めてお

#### 医学部入試についての小委員会の考え方

属性	取り扱いの差の評価	理由や留意点など
性別	×	女性を理由に差別は不適切
浪人年数	△	不適切。地域枠では実情に応じて可
内部進学	○	入学の受け入れ方針で示し、公平性を確保
卒業生の親類	○	社会に説明可能な範囲で、入試要項に明記
地域枠	○	社会に説明可能な範囲で、入試要項に明記

覚し、会議は小委員会を設け、性別や浪人の年数、内部進学、地域枠など、様々な受験生への公平な扱いについて議論してきた。規範では、「国民から見ると公平か」「よい医療人の確保」の2点から扱いを検討。性別による一律の点数操作は「許容されない」とした。浪人の年数や年齢で評価に差を付けることも不適切と判断した。卒業生の子らの入学枠は

容認。委員長を務めた嘉山孝正・山形大参与は「親が医療人であれば医師になるのをやめにくく愛校心が強い」などと説明した。ただ、不正をうむ余地があるなどとして、要件の明示や特定の人物が合格を判定し

ない制度にすることを前提にした。今後さらに議論が必要だとした。地元で一定期間働くことを条件に奨学金が受けられる地域枠は、性別を条件にしてはならないが、社会に説明可能な範囲の年齢によ

る条件を設けることはできない。違反した場合は、会議から除名するなどの処分対象とする。嘉山委員長は「規範は重いもので、破るのは非常に悪質と言えろ」と話した。

### 診療科で男女偏在 ■都市に集中

### 医療現場の改革 望む声

医学部入試で受験者の性別で差をつけてきた背景には、診療科による男女の偏りや都市部への偏在など、医療界が抱える問題がある。専門家は一連の入試不正を社会全体で考える契機にすべきだと指摘する。

女性医師は子育てなどで現場を離れたり、勤務が制限されたりすることが少なくない。2016年の厚生労働省の調査によると、外科など長時間や不規則な勤務

女性医師は子育てなどで現場を離れたり、勤務が制限されたりすることが少なくない。2016年の厚生労働省の調査によると、外科など長時間や不規則な勤務

女性医師は子育てなどで現場を離れたり、勤務が制限されたりすることが少なくない。2016年の厚生労働省の調査によると、外科など長時間や不規則な勤務

(小坪遊、月籠彩子)